2015 年 9 月 17 日（木）
先端的都市研究拠点特別研究員研究発表会
社会包摂ユニット 鄭栄鎮

八尾と在日朝鮮人の関係史（序論）

■はじめに

・大阪府東部の八尾市では、1945 年以前より現在に至るまで多くの在日朝鮮人が居住しているが、その要因は明らかになっていない。
・人の移動をめぐる理論として、「プッシュ要因」と「プル要因」があり、プル要因として、好況な労働市場、好ましい全般的な生活水準、低い人口密度などがあるとされる。
・「プル要因」としての産業および労働に主に注目して、八尾市に在日朝鮮人が引き寄せられた要因について検討する。

■八尾市の概要

・大阪府東部に位置。1948 年に八尾町、龍華町、西郡村、久宝寺村、大正村の合併で市制施行。市制施行時、面積 18.99K ㎡、人口 6 万 4,431 人。のちに数度の合併を経て現在の市域確定。
・2013 年 3 月末現在人口 26 万 9,759 人、面積 41.72K ㎡。
・大阪府下市町村 GDP 試算、9,299 億円で府下 7 番目（2010 年）。製造品出荷額大阪府下第 3 位。
・産業別比率では、第二次産業が 40.8%、第三次産業が 58.1%、「中小企業のまち」として知られる東大阪市（26.4%）よりも、第二次産業の比率では高い。

■在日朝鮮人の過去人口の推計

・2013 年 3 月末現在人口 26 万 9,759 人のうち、外国籍人口 6,553 人、比率 2.42%
・外国人登録法施行の 1952 年時の外国籍者比率 2.6%。当時の社会的状況からは、外国籍者の大多数が在日朝鮮人だと推定される。
・入手可能な資料のうち、外国人登録数のもっとも古い数値がわかるものをみれば、1950 年時八尾市総人口 6 万 6,694 人、外国人登録数 1,849 人、比率 2.77%。
・上記総人口と同資料掲載各旧町村別人口から各旧町村別の人口割合（%）が出せる。その割合で同年の外国人登録数 1,849 人を同割合で割り振ると、以下の旧町村別外国人登録数と比率が推計でき、「龍華」、「八尾」での登録数と比率が高いとが推測できる。
　→八尾 685 人（38.00%）、龍華 585 人（32.42%）、久宝寺 273 人（15.12%）、大正 171 人（9.51%）、西郡 89 人（4.95%）

■八尾の朝鮮人と「朝鮮街」

・植民地期に新聞で朝鮮半島に「成功者」として紹介された現在の八尾市につながる朝鮮人の住所をみると、龍華、八尾となる。
・龍華町安中地域には、朝鮮人が多数居住する東と西の「朝鮮街」があり、「西」は 1930 年代頃、「東」は戦後間もなくできたとされる。
・大阪府警察部特別高等課「昭和 8 年度朝鮮人に関する統計表」（1933 年）によれば、八尾市の前身「龍華町安中」に「朝鮮人 82 戸数 123 人」の居住の報告あり。
・「（1941 年に龍華小学校に赴任し・注）私は 2 年 7 組の担任となり（略）当時は朝鮮名の子どもが 3 分の 1 ほどいて出席をとる時、名前を呼ぶのに四苦八苦、子どもに教えてもらい、早く覚えなくてはと懸命でした」。
・「西の朝鮮街」：
　→・「土地は日本人のもので、大きなニワトリ小屋が建っていた。朝鮮人が土地を借り、小屋を改造して住み（略）土のカベはなく、紙で代用。屋根はトタン。共同便所に共同井戸」。
　　・「戦前、安中に住みついた朝鮮人は現在の 3 倍から 4 倍、3、400 世帯にのぼった（略）そ

のほとんどが親兄弟や親せき、知人を頼ってやってきた」。

・「安中の朝鮮人は、日本中の朝鮮人がそうであったように、故郷へ帰る人が相ついだ。さらに日本国内のあちこちに分散していった人も少なくないという。人口はガタ減りした」。

・「東の朝鮮街」：

→・「日本の敗戦、朝鮮の解放にともなって、安中の朝鮮人たちは祖国へ帰ったり、日本国内のあちこちへ移っていったりして、人口は大きく減った。そのあとを“うめる”ように、かなりの朝鮮人がよそから安中へやってきた」。

・「戦前から安中に住んでいる朝鮮人は亡くなったり、よそへ行ったりして、今では数人だけという」。

・「同じように差別と貧乏に苦しんでいるし、（略）物価も安うて、よそより生活しやすかったんとちがうやろうか。よそでは家ひとつ、借してくれへんかったし、仕事もなかった。部落には人のいやがる仕事なら、あったしな」。

■八尾の産業、労働と朝鮮人

・1889 年、大阪鉄道による湊町柏原間の開通と八尾停車場の設置（現、JR 大和路線八尾駅）

・1924 年、大阪電気軌道の布施八尾間の開通（現、近鉄）

・「明治期から国鉄関西線八尾駅付近は、紡績・製油などの工場ができてきた。その上、第一次大戦の好況期からは黄燐燐寸、ニカワ製造、撚糸、貝釦、歯刷子原料製造など多種類の中小工場が進出してきた」。

・「大阪市内に比べて土地が安価のため、住宅地、工場地帯として開発されていった」。

・「八尾の近代工業は、燃糸業から始ったといわれています（略）明治時代には、燃糸業のほかに綿実を原料とした製油業（略）ブラシ工業、マッチ工業などがおこりました（略）」。

・「当時（1930 年代頃）、製油会社が 4、5 社あった。朴さんはその製油会社につとめた（略）長時間のうえ、きびしい重労働だった」。

・「ちょっとでも学校に行けただけでもええほうやった。とくに女の子はだれ一人として行ってませんな。5 つ、6 つのころからファスナーづくりを手伝ってましたからなー」。

・「部落産業であるニカワ製造にかわって、サンド・ペーパー（中略）製造工場をムラの有力者がつくった。その有力者が低賃金で使え、仕事にあぶれていた大阪市生野区の朝鮮人を多数やとった。この人たちが住みついたところが“東の朝鮮街”とよばれるようになった」

・1951 年の従業員 5 人以上の八尾市内会社数統計からは、もっともおおいものは「繊維」となり、龍華は「金属」、八尾は「刷子」になる。

・ブラシ工業は大正末期から昭和初期にかけて鶴橋から八尾へ移転してきたものが多いとされる。

【参考資料】

・部落解放同盟大阪府連合会・解放新聞社大阪支局、1982、『被差別部落に生きる朝鮮人』
・佐野浩、2014、「大阪府の市町村民経済計算の試算について」
・外村大、2007、『在日朝鮮人社会の歴史学的研究 –形成・構造・変容–』
・八尾市、1951、『八尾市勢要覧 昭和 26 年版』。
・同、1952、『八尾市勢要覧 昭和 27 年版』
・同、『やお市政だより』835 号、1988 年 2 月 20 日
・八尾市立龍華小学校創立百周年記念誌編集委員会、2008、『創立百周年記念誌「龍華」』
・八尾市史編集委員会、1983、『八尾市史（近代）本文篇』
・八尾市教育委員会、1993、『1993 年度（平成 5 年度）国際理解教育・在日外国人教育研究実践資料集（第 11 集）』
・八尾市商工課編、1958、『八尾ブラシ工業の実態』